

## 特別講演

### 高気圧酸素治療におけるリスクマネジメント

小川 龍

(日本医科大学麻酔科学教室)

講演者は高気圧酸素治療に常に関与している者ではない。本講演は病院の管理者(副院長)としてリスクマネジメント(RM)を担当する立場からの発言である。

#### 1. RMとは何か?

1) リスクとは、いつ顕現化するかは不明であるが、顕現すると患者や病院が好ましくない影響を受ける事象を総称している。

2) 数量的表現を行うと、(リスク=該当する作業の規模×発生確率)となる。

3) リスクは極めて多様性を持ち、①病院の組織体制、②経営方針、③臨床現場の体制、④職員の資質、⑤医療機器機材、⑥患者と病院職員との感情的問題、⑦提供した医療内容の質、⑧患者の問題、⑨社会的要因、⑩研究開発の遅れ、などが含まれる。

#### 2. RMの実施

RMの実施は概ね、①病院当局によるRM方針の公表、②RMを担当する委員会の設立と運営、③総責任者(ゼネラルリスクマネージャ)の任命、④各職種、診療科、病棟、部門のリスクマネージャの指名、⑤潜在するリスクの調査(インシデント、アクシデント報告)、⑥起こりうるアクシデントの洗い出し、⑦リスク分析、⑧RMのガイドラインの策定、⑨RMの段階的实施、⑩RM教育、訓練の実施、⑪RMの実施状況の監視と報告、⑫RMの見直しとガイドラインの改訂、の手順をたどる。

#### 3. 高気圧酸素治療室でのRM

高気圧酸素治療の安全基準は既にある。これを生かしhuman errorを排除するための対策マニュアルは以下の観点から作成する。①重視するリスクを決める、②対応方針を明確化、③対応体制の構築、④予防活動、⑤エラー発生時の対応、⑥教育・訓練。

## 安全対策委員会報告

### 安全基準見直し作業報告

恩田昌彦 郷 一知 鎌田 桂  
眞野喜洋 杉山弘行 野口照義  
小林繁夫 有川和宏 羽生田義人  
中島太郎 荻原義光 百村明德  
渡辺 肇 毛利敏行 伊丹 博  
堀 義里 駒宮功額 小村一雄

(日本高気圧環境医学会安全対策委員会)

【目的】安全対策委員会で行われている「現行安全基準の見直し」について、報告をする。

【方法】委員メンバーを技術部会、HBO管理部会、安全協会部会、医療系部会の4つの部会に分け、外部メンバーを加え、総勢52名とした。安全基準見直し作業として、技術部会ではHBO装置に関する項目を、HBO管理部会ではHBO装置の操作に関する項目を、安全協会部会は安全協会の項目について、医療系部会では更に潜水専門部会を設置し、HBO治療指針及び減圧症のための再圧治療について検討を行った。

【結果】今年2月に第1回安全対策委員会開催後、7月31日現在、安全対策委員会2回、技術系部会委員会4回、安全協会部会委員会1回開催、医療系部会、HBO管理部会は文書により意見を求めた。この時点に於ける大きな問題点として、技術系部会では圧力単位の国際基準対応とHBO着衣の問題等、HBO管理部会では管理医・認定技師の明確化、高気圧作業安全衛生規則との整合性、安全協会部会では安全協会定款との整合性、医療系部会では治療指針の見直しと高気圧酸素治療・再圧治療の明確化などであった。

【今後の方向性】これらの結果を踏まえて、作業経過報告を行うと共に、日本高気圧環境医学会会員の意見を更に求め、より充実した安全基準改定案作成を行ない、今後の理事会と評議委員会での議決成立を目指している。